

# 令和3年度当初予算の概要 (事業別説明資料)

## 農林部



## 目 次

農産物直売施設の建替	4
地域食材の活用推進に向けた取組	5
飛騨市うまいお米販促支援	6
「植えて」「育てて」「食べる」楽しみを通じた食育の推進	7
飛騨市産業まつりの開催	8
農地利用集積最適化の推進（古川町杉崎地区他）	9
鳥獣被害の総合的な防止対策	10
圃場の小規模基盤整備の推進	11
新規就農者の発掘・獲得、就農支援サポート	12
農業研修生に対する住居費の支援	13
新規作物の冬季栽培及び定着への取組の支援	14
中高年就農者への支援	15
牛伝染性リンパ腫清浄化に向けた取組*	16
牛伝染性リンパ腫淘汰更新への支援	17
受精卵移植・採卵推進への支援	18
ひだキャトルステーション運営への支援	19
スマート農業技術導入への支援	20
飛騨市経産肥育牛（飛米牛）ブランド化への支援	21
飛騨地鶏ブランド力向上への支援	22
日本みつばち保護・飼育振興への支援	23
地元産高品質堆肥地域循環推進への支援	24
就農研修生への支援*	25
飛騨牛雌牛増頭への支援*	26
民有林の整備促進*	27
森林集約化及び境界明確化の推進	28
未整備森林の整備推進	29
高度林業技術の確立支援	30

林業専門人材の活用及び育成の推進 .....	31
市有林の整備促進 * .....	32
里山林の整備促進 * .....	33
広葉樹のまちづくりの普及・推進 .....	34
飛騨市産広葉樹の活用によるイメージアップ .....	35
持続可能な広葉樹林業確立に向けた研究の実施 .....	36
広葉樹のまちづくり賃貸住宅の整備 .....	37
地域再生（全国広葉樹活用）シンポジウムの開催 .....	38
広葉樹のまちづくり関係人口のネットワーク化の推進 .....	39
広葉樹の森と地場産品の関係見える化プロジェクト .....	40
有害鳥獣の捕獲推進 * .....	41
地籍調査の推進 * .....	42

注：タイトル末尾に \* 印がある事業は所属ごとの概要資料のみに掲載しています（\* 印がない事業は主要事業編から再掲となります）

## [拡充] 農産物直売施設の建替

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】												
121, 153	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">国庫補助金</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">40, 000</td> <td style="width: 33%;">工事請負費</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">83, 429</td> </tr> <tr> <td>過疎債他</td> <td style="text-align: right;">56, 306</td> <td>委託費</td> <td style="text-align: right;">25, 906</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">24, 847</td> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">11, 818</td> </tr> </table>	国庫補助金	40, 000	工事請負費	83, 429	過疎債他	56, 306	委託費	25, 906	一般財源	24, 847	その他	11, 818	
国庫補助金	40, 000	工事請負費	83, 429											
過疎債他	56, 306	委託費	25, 906											
一般財源	24, 847	その他	11, 818											
(前年度予算 12, 662 )														

### 2 事業背景・目的

古川町朝開町にある農産物直売施設は、築70年以上を経過し、耐震基準も不適合であることから、古川町上町にある道の駅アルプ飛騨古川への新築移転に向け、令和2年度に直売施設のコンセプトを定め、実施設計を行いました。建設工事が始まる令和3年度は、「飛騨いち舞台」と銘打ち、飛騨市の特色を活かした豊富な品揃えが自慢のオンリーワン、おもてなしナンバーワンの魅力あふれる直売所をコンセプトに、生産者が自慢の野菜を披露する舞台となることを目指して進めていきます。

### 3 事業概要

#### ①【継続】農産物直売施設の建設等 (98, 429千円)

農産物直売施設の躯体建設及び敷地造成を行うとともに、必要な備品の購入と現在朝開にある保冷库の移設を行います。

- ・ 構造：木造1階 床面積306㎡ (現在の朝開農産物直売施設の約1.5倍)
- ・ オープン：令和4年4月 (予定)

#### ②【新規】飛騨市産広葉樹を活用した内装空間の木質化 (13, 054千円)

直売施設の内装を市内広葉樹を活用した木質空間とするため、直売施設のコンセプトに沿ったデザインの委託をプロポーザル方式で実施します。

#### ③【新規】運営体制の強化とPR (9, 670千円)

オープンと同時に安定した直売施設の運営を行うため、設計段階から一緒に協議を行える農業経験や経営ノウハウを有する店舗マネージャーを指定管理者に発掘、養成いただくとともに、直売施設経営の専門家を招聘し、栽培や経営方法についてご指導頂きます。

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 3 農業振興費	
所 属	農林部農業振興課 Tel.0577-73-7466	予算書	P. 94

## **拡充** 地域食材の活用推進に向けた取組

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】												
4,860	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">国庫補助金</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">800</td> <td style="width: 33%;">委託料</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">3,900</td> </tr> <tr> <td>ふるさと創生基金</td> <td style="text-align: right;">800</td> <td>報償費</td> <td style="text-align: right;">650</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">3,260</td> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">310</td> </tr> </table>	国庫補助金	800	委託料	3,900	ふるさと創生基金	800	報償費	650	一般財源	3,260	その他	310	
国庫補助金	800	委託料	3,900											
ふるさと創生基金	800	報償費	650											
一般財源	3,260	その他	310											
(前年度予算 200 )														

### 2 事業背景・目的

飛騨市には、飛騨牛をはじめ基幹作物であるトマトやほうれんそう、また食味の高いお米に加え、古くからこの地に根付いてきた伝承作物など、自慢できる食材が豊富にあります。しかしこれらの「食」は、つくり手側（生産者）のメッセージが直接消費者に届く場が少ないのが現状です。

そのため市では販路開拓や市内流通を希望する生産者と購入したい実需者を繋ぐツールとして、生産者のこだわりや出荷量、生産物の特徴や用途などをWEB上にまとめたカタログを作成し、市内生産者の見える化、農産物の販路拡大に繋げるほか、地域の「食」を活用した料理コンテストや、生産者と飲食店が連携した「まるごと食堂」を通じて、つくり手側(生産者)のメッセージを消費者に届ける取組みを行います。

### 3 事業概要

#### ①【新規】飛騨市農産物総合カタログの作成 (2,000千円)

市内農業者の農産物と収穫量や時期等を網羅した総合カタログをWebで制作し、一般消費者のみならず商談時にも活用するなど、農産物の販路拡大を図ります。

#### ②【新規】(仮称) おうちレシピグランプリの開催 (1,260千円)

飛騨市で生産される様々な食材を身近に感じてもらうため、各ご家庭に昔から伝わるレシピや新しいアイデアレシピなどを募集しグランプリを決定します。グランプリに選ばれたレシピは、試食会を通じて市内の飲食店や旅館等で活用します。

#### ③【拡充】飛騨市まるごと食堂の期間拡大 (1,600千円)

農家と市内飲食店・旅館等が連携し飛騨市産食材を活用したメニューを期間限定で提供する「飛騨市まるごと食堂」の期間を拡大して実施します。

・開催期間：8～9月

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 3 農業振興費	
所 属	農林部農業振興課 Tel.0577-73-7466	予算書	P.94

## 拡充 飛騨市うまいお米販促支援

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
3,313	一般財源	3,313
		補助金・交付金・負担金 1,830
		委託料 500
		その他 983
（前年度予算 1,343 ）		

### 2 事業背景・目的

近年、飛騨市の米は、国際コンクールで8年連続受賞するなどトップクラスの評価を受けています。一方、日本各地で新品種が次々と生産されており、米のPR競争はますます熾烈なものとなっています。こうした中、令和2年度に実施したふるさと納税寄付者へのアンケートでは、飛騨市の米の認知度が低いという結果が出ており、この熾烈な競争を勝ち抜くためには、より一層のPRが必要な状況です。

そこで令和3年度では、更なる品質向上の意識づけとして、コンクールへの出品支援や近年注目が高まる米に関する資格の取得支援など、農家や飲食店の米の知識、情報発信力の強化を図るとともに、米の更なる魅力増進に向けた栽培研究を行います。

### 3 事業概要

#### ①【新規】食味コンクール出品支援（1,050千円）

市内農家に対し、米の講習会参加を条件にコンクールへの出品支援を行います。  
・補助上限額：米コンひだ5千円/人、国際大会10千円/人

#### ②【新規】地域の特色を追及したお米の研究（ゼロ予算）

令和4年度栽培に向け、飛騨市うまいお米研究会を中心に、水や栽培方法等から有名銘柄にも勝る飛騨市ならではの特色を持つブランド米の栽培研究を行います。

#### ③【新規】ごはんソムリエの養成（160千円）

市内農家や飲食店等へ、日本炊飯協会が認定する「ごはんソムリエ」の取得費用を支援し、米の幅広い知識の普及と農家、飲食店の情報発信力の強化を図ります。  
・補助額：32千円/人

#### ④【継続】飛騨の地域米ブランド化及び販路拡大支援（2,103千円）

飛騨市産米の販路拡大に向け、市外イベント参加によるPRや都内飲食店などへの売り込み活動の実施、新たに米をブランド化する際の経費支援などを行います。

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 3 農業振興費
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466	予算書 P.94

## 拡充 「植えて」「育てて」「食べる」楽しみを通じた食育の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
749	県補助金	367	補助金	661
	一般財源	382	報償費	78
			需要費	10
(前年度予算 502 )				

### 2 事業背景・目的

「食べる」という営みは生涯にわたって行われる、生きていく上で必要な行為です。子どもたちが実際に体験しながら、バランスのとれた「食」を選ぶ力や「食」に関する知識を身に付けることは、後々まで記憶される重要な体験となります。

飛騨市では、市内の子どもたちが食育を通して、食事の大切さや市内の農産物の美味しさ、身近な生産者の存在に親しみを持っていただけるよう取り組んでいます。

令和3年度は新たに親子参画型の食育事業を開催し、親子で体験することで今後の食生活にも好影響を与えることを願いながら、お子さんと親御さんが一緒になって「食」を学べる機会を創出します。

### 3 事業概要

#### ①【新規】 トマト名人のミニトマトをみんなで育てよう食育授業 (22千円)

市内の園児を対象に、ミニトマトを苗の植え付けから収穫して食べるまでを体験し、自然の力に触れていただくとともに、保護者の方にその豊富な栄養価等について学んでいただき、食事の大切さを伝える取り組みを行います。

#### ②【新規】 食育体験を実施する事業者への支援 (225千円)

農業を体験したことのない子どもたちへ農業の大変さや収穫の喜びを感じてもらう機会を創出している団体に対し、活動資金の補助を行います。農業と福祉の連携した多世代間交流地域共生社会モデル事業の一環として実施します。

#### ③【継続】 学校給食の地産地消推進 (436千円)

学校給食における県産食材使用に係る費用の一部を負担します。

- ・JA中央会、岐阜県、市(各1/3)負担

#### ④【継続】 まめっこキッチンへの支援 (66千円)

市内保育園を中心に食育活動を行う農家団体へ、活動に対する支援を行います。

(款)	6 農林水産業費	(項)	1 農業費	(目)	3 農業振興費
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466			予算書	P.94

## **拡充 飛騨市産業まつりの開催**

1 事業費 (単位: 千円)	【財源内訳】	【主な使途】
1,500	ふるさと創生基金 1,500	委託料 1,500

(前年度予算 2,900 )

### 2 事業背景・目的

例年実施していた「飛騨市農業まつり」は、収穫を祝うまつりとして市内の生産者組織を中心に続けられ、農業者の実需者と触れ合える機会となり、営農意欲の増進や地産地消の推進に寄与してきましたが、生産者組織が解散したことに加え、開催内容や運営形式、開催時期を含め見直す必要がありました。

そのため、運営形式を出店者で組織する実行委員会形式にし、飛騨市の地域資源を市民の皆さんにも親しんでもらえるよう、これまでの「農」に特化したものから飛騨市の「恵み」という視点に拡充し、林産物を加えた農・畜・林・水、それぞれの生産物を使用した食品・特産品・加工品・工芸品等に加え、様々な産業が一同に集う産業まつりとして開催します。

### 3 事業概要

これまでの農業まつりを一新し、農畜林水産物を使用した食品・特産品・加工品・工芸品等に加え、様々な産業が一同に集う産業まつりを新たに開催します。

開催時期: 9月末頃 場所: 未定



(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 3 農業振興費	
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466	予算書	P.95

## **拡充** 農地利用集積最適化の推進（古川町杉崎地区他）

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】								
14,929	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">県補助金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">7,164</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">7,765</td> </tr> </table>	県補助金	7,164	一般財源	7,765	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">委託料</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">14,329</td> </tr> <tr> <td>補助金</td> <td style="text-align: right;">600</td> </tr> </table>	委託料	14,329	補助金	600
県補助金	7,164									
一般財源	7,765									
委託料	14,329									
補助金	600									
（前年度予算      22,078   ）										

### 2 事業背景・目的

農業者の高齢化や後継者不足が進む中、少人数で広い面積をカバーできる農業環境を整えていくために、地理的、環境的条件に応じた担い手の確保と、農地集積・集約による営農の効率化、農業生産性の向上を目的とした施策が必要となっております。

そのため、市では平成30年度から古川町是重地区において玄の子土地改良事業を進め、令和2年度から杉崎地区においても杉崎土地改良事業の実施に向けた調査を開始し、組織運営の資金に対する貸し付けを行っております。令和3年度は杉崎地区土地改良事業計画の策定業務を進めるほか、玄の子地区の工事開始に伴うハウス移転の補助などの支援を行い、土地改良事業を進めていきます。

### 3 事業概要

#### ①【拡充】杉崎地区の土地改良事業計画の策定（14,329千円）

令和2年度の杉崎地区土地改良事業策定業務に引き続き、土地改良事業の事業申請に必要となる土地及び地権者、権利関係などの調査、法手続きに必要な書類整備を行います。

- ・杉崎土地改良事業計画策定業務   ：10,769千円
- ・杉崎土地改良事業換地調整業務他   ：3,560千円

#### ②【継続】土地改良事業に伴うハウス移転の補助（600千円）

土地改良事業に際し移転が必要となる農業用施設（ビニールハウス）について移転に伴う費用の一部を補助し、効率的な営農環境を構築するよう集約を推進します。

- ・新設撤去等に係る費用の1/3を補助

#### ③【継続】土地改良事業組織との連携と農地利用に関する説明会の開催（88千円）

玄の子地区及び杉崎地区の土地改良事業推進協議会等に対し、事業の進捗などを伝えるとともに、今後の土地改良事業の推進に向けて他地域での説明会も行います。

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 3 農業振興費
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466	予算書 P.95

## **拡充** 鳥獣被害の総合的な防止対策

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
5,863	県補助金	3,933	補助金	4,933
	一般財源	1,930	委託料	450
			その他	480
(前年度予算 3,045 )				

### 2 事業背景・目的

近年、里山を中心にイノシシ・クマの活動が活発化し、農産物被害の増加により生産者の営農意欲の低下に繋がっています。特に令和2年度からは、新たにサルの被害が増加している地域も出てきており、サルは従来のイノシシ等への罠や柵では効果が薄いため、被害の深刻化が危ぶまれます。こうした鳥獣被害の対策においては、電気柵やワナの設置などの部分的な対策と併せて、誘因となる餌を出さないなどの環境整備対策が非常に効果的であり、地域みんなで守ろうという共通意識を持つことが重要であり、令和3年度では、今後より深刻化が危ぶまれるサルの被害の多い地区を重点対策地区として指定し、地域と積極的な協議、検証を行いながら、獣害対策のモデル地区となるよう取り組んでいきます。また、個々の対策支援として新たに撃退器やサルに対応した柵の導入支援を行います。

### 3 事業概要

#### ①【新規】地域と連携した重点的な獣害（サル）対策の取り組み（930千円）

サルの被害が多い数河、石神地区を獣害対策重点地区に位置付け、研修会の実施や現状を踏まえ、地域の皆さんが実践できる獣害対策の方法を検討し、地域全体で対策を実践します。また、その対策の検証を行い、他の地区でも対応していきます。

#### ②【新規】サル用防止策及び撃退機の導入支援（1,000千円）

鳥獣害防止柵の設置補助に、新たに通常の柵よりも単価の高いサル用の柵及び撃退機の設置補助を設けます。

・補助率：1/2 上限(個人100千円、集落・法人2,000千円)

#### ③【継続】鳥獣被害防止総合対策補助金（3,933千円）

末真地区(鳥獣防止柵)の鳥獣被害防止対策を実施します。

・防止柵の規模：H=2.0m L=2,500m 費用：1,430円/m×1.1

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 3 農業振興費	
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466	予算書	P.94

## **拡充** 圃場の小規模基盤整備の推進

<b>1 事業費</b> (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
4,000	一般財源	補助金
	4,000	4,000
(前年度予算 4,000 )		

### 2 事業背景・目的

農業者の高齢化や後継者不足が進む中、少人数で広い面積をカバーできる農業環境を整えていくために、かねてから営農効率の向上や圃場改善を目的とした農地の基盤整備や暗渠整備を補助対象とする小規模基盤整備事業を行ってきました。

近年、各地域で鳥獣被害が増加し、営農意欲の減退に繋がっていることから、令和3年度は新たにイノシシ等による圃場法面の掘り起こし被害の復旧を補助対象として拡充し、耕作放棄地の拡大抑制を目的とした支援を行います。

### 3 事業概要

#### ①【新規】 獣害による法面被害復旧支援

イノシシ等による圃場法面の掘り起こし被害の復旧にかかる経費の一部を補助します。

補助額：復旧に要する経費又は委託費の1/2以内 ※㎡当りの上限あり

#### ②【継続】 圃場の大区画化支援

営農効率の向上を目的とし、隣接する小区画農地を大区画化する場合に、畦の除去や敷高の調整にかかる工事費の一部を補助します。

補助額：整備に要する経費又は委託費の1/2～2/3以内

※合わせる圃場同士の高低差により上限額が変わります。

#### ③【継続】 圃場条件の改善支援

現に給排水機能及び暗渠排水機能を有さず、今後永続的に営農していくための圃場改善を目的とした工事費の一部を補助します。

補助額：排水設備の整備に要する経費又は委託費の1/2以内

※整備するパイプ等の種類でmあたりの上限単価が変わります。

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 3 農業振興費	
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466	予算書	P.96

## 【拡充】 新規就農者の発掘・獲得、就農支援サポート

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,867	県補助金	787	会計職人件費	1,301
	一般財源	2,080	報償費	700
			その他	866
(前年度予算 2,302 )				

## 2 事業背景・目的

市では現在抱える担い手農家の減少及び高齢化や遊休農地の増加という課題への一つの解決策として、他地域からの新規就農者の確保に取り組んでおり、就農後自立した経営をしていく力を付けるための研修制度や、定期的に圃場の状態を確認し都度助言や困りごとを聞く相談員の配置など、サポート体制の充実に努めています。

平成28年度から令和2年度までの5年間では、国の助成を受け設置したトマト研修所や専業農家のもとで就農前の研修を実施し、他地域から11名の方が就農されました。

令和3年度では、更なる新規就農者の獲得のため、新たに飛騨市での就農意欲が高い方が、飛騨市で行う事前体験をより安心して受けられるよう、市へ体験に来るための旅費の支援を行います。

## 3 事業概要

### ①【新規】 飛騨市への就農研修事前体験に要する宿泊費等への支援 (60千円)

これまで市で就農を希望する方へ研修制度や相談員の配置などサポート体制を整えてきましたが、今回新たに飛騨市の研修施設などを事前に体験する際の宿泊費等に対し、県の補助に上乗せして助成をします。

- ・対象者：岐阜県が定めるぎふ中期農業体験研修（農作業や加工・販売・経営等を学ぶ2泊以上30泊未満のもの）に該当する者（1人1回限り）
- ・助成額：県補助の1泊あたり4,000円/人に市が更に4,000円/人を上乗せ

### ②【継続】 新規就農者の発掘、就農への総合的な支援 (2,807千円)

県事業を活用し、新規就農者確保及び市内農家の研修等に伴う活動を支援します。

- ・報酬：就農コーディネーター（就農相談活動等）
- ・謝礼：農業研修・体験の受入
- ・その他：就農フェアへの出展、募集情報発信、若手農業者視察研修支援 等

(款)	6 農林水産業費	(項)	1 農業費	(目)	3 農業振興費
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466			予算書	P.94

## 継続 農業研修生に対する住居費の支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
420	一般財源	420	補助金	420

(前年度予算 360 )

### 2 事業背景・目的

全国的に農業従事者の高齢化や担い手不足が進行する中、市では市内農業の維持、発展に向けた人材獲得のため、トマト研修所等の研修施設を活用し、市内で就農していただくことを前提に、研修生を受け入れる仕組みを設けています。

しかしながら、トマト研修所等での長期研修を受ける市外から移住してきた農業研修生は、国の次世代農業人材投資資金による給付金以外の収入がなく、慣れない環境の中で経済的な不安を抱えながら研修生活を過ごすこととなります。

このため、市ではそういった農業研修者に対し、経済的・精神的な不安を軽減し、就農に向けて充実した研修生活を送ることができる環境を整備するため、市外から移住された研修生が賃貸住宅に入居する際の家賃の一部補助を行っています。

### 3 事業概要

農業研修のために飛騨市に移住され、賃貸住宅に入居する方に対し、家賃の一部を補助します。

対象者：県があすなる農業塾と呼ばれる農業研修の受け入れ先として承認した研修施設及び農家で研修を行う者

助成額：家賃から住居手当その他の家賃支払いに充当される手当などを控除した額の2分の1とする。



(款)	6 農林水産業費	(項)	1 農業費	(目)	3 農業振興費
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466			予算書	P.96

## 【拡充】 新規作物の冬季栽培及び定着への取組の支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
1,500	一般財源	1,500	補助金	1,500

(前年度予算 500 )

### 2 事業背景・目的

市では農業者の団体が新たな飛騨市の特産品として振興作物を定着させるための取り組みを支援しており、様々な作物の振興、定着に向けた取り組みがなされています。一方で、雪国である飛騨市では、菌床シイタケ等を栽培される方もいらっしゃいますが、栽培環境が大きく制限されるため、まだまだ冬季に栽培される作目は少なく、そのため、一年を通じて営農される方は多くない状況です。

冬季でも栽培できる作物を開拓し、通年での営農が可能になることで、冬期間の収入の確保や通年での雇用を希望するパート・従業員を雇用でき、安定した営農や規模拡大に繋げることができます。

このことから、冬季間の新規作物に挑戦する農業者の取り組みを強力に支援し、農業者の収入向上、経営の安定化を図ります。

### 3 事業概要



#### ①【新規】 新規作物チャレンジ補助金 (1,000千円)

冬期間に栽培できる新規作物に挑戦する認定農業者が、栽培に係るハウス・農業機械を購入する際の事業費を一部補助します。

令和3年度は、冬期間のイチゴの生産への取り組みを支援します。

- ・対象費用：経営改善計画に基づくハウス・農業機械の導入費用
- ・補助額：4/10以内 上限100万円

#### ②【継続】 振興作物定着支援交付金 (500千円)

農業者の団体が、新しく振興作物を定着させるための取り組みを行う際、振興作物の産地視察に係る使用料や梱包材作成等にかかる費用を支援します。

令和3年度は、J Aひだ青年部のメンバーを中心としたイチゴ研究会に対し、イチゴの定着に向け試験栽培や販売方法の検討を行う取り組みを支援します。

- ・交付期間：最大2年 交付額50万円/年

(款)	6 農林水産業費	(項)	1 農業費	(目)	3 農業振興費
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466			予算書	P.96

## 拡充 中高年就農者への支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
3,000	新規就農者育成基金	2,500	補助金	3,000
	一般財源	500		

(前年度予算 2,000 )

### 2 事業背景・目的

市では45歳から75歳未満の方で、市場などへの出荷と、一定程度の農業所得が得られる方に対して、資材等を整えるための給付金や農機具の購入補助を設け、営農意欲の向上及び円滑な営農を開始するための支援を行っています。

一方で、高齢化や人口減少による後継者不足により、農家の総数が徐々に減少し、今後耕作放棄地が増加していくことが懸念され、地域内農地を少人数で広く保全していける環境の形成が必要です。

そこで令和3年度より新たに、広範囲の農地をカバーできる水稲を中心に営農されている方で、水稲の作付面積の増加をされる方に対して、農機具の購入・更新等を支援し、より広くより永く水稲を営農できる環境を整え、地域の農地保全を図ります。



### 3 事業概要

#### ①【新規】中高年就農者水稲応援事業補助金 (500千円)

利用権を結び、新たに5a以上の農地を1筆以上借りて水稲作付けを行う方を対象に農機具を購入する際、費用の1/3以内の額を補助します。(上限50万円/1回限り)

#### ②【継続】中高年就農者就農給付金 (1,500千円)

出荷組合に所属しており、就農して3年目までに、農業所得が100万円以上見込まれる就農計画を提出する方を対象に、給付金50万円を交付します。

#### ③【継続】中高年就農者農機具等購入助成 (1,000千円)

就農してから新たに農機具を購入する際、その費用の1/3以内の額を補助します。

要件：就農後3年以内で出荷組合に加入していること ※一回限り

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 3 農業振興費	
所 属	農林部農業振興課 TEL0577-73-7466	予算書	P.96

## **拡充** 牛伝染性リンパ腫清浄化に向けた取組

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
485	雑入	136	備品購入費	285
	一般財源	349	補助金	200
(前年度予算 950 )				

### 2 事業背景・目的

牛伝染性リンパ腫は、家畜伝染病予防法に定める届出伝染病の一つで、ウイルスの感染により発症します。感染牛の大部分は未発症となり、発症牛は5%程度となりますが、発症した場合は有効な治療法やワクチンは存在せず、有効な対処法も存在しません。飛騨市においても牛伝染性リンパ腫の発生は少なくなく、繁殖牛を抱える農家の経営に大きな影響を及ぼしています。

近年市内繁殖農家においても清浄化への意識が強くなってきており、市では令和2年度に抗体検査を全頭実施し、陽性率を把握、陰性となったものも隠れ陽性の可能性を考慮し一部PCR検査を実施しました。結果は管内全1,000頭中の250頭が陽性となり、陽性率は25%でした。(全国平均程度の陽性率)

令和3年度も国の衛生ガイドラインに従い、国補助事業を活用しながら、引き続き清浄化に向け取組んでいきます。

### 3 事業概要

#### ①【継続】牛伝染性リンパ腫検査補助金 (200千円)

市内繁殖農家の牛伝染性リンパ腫検査にかかる費用を補助します。

- ・ ELISA抗体陰性牛のPCR検査 100頭
- ・ 素牛導入牛、自家産保留牛のPCR検査 100頭
- ・ 検査料の1/4を補助する

#### ②【新規】検査機器の導入 (285千円)

牛伝染性リンパ腫は、これまでELISA (抗体検査) 及びPCR検査 (遺伝子検査) により、数値等で感染の有無を判断していましたが、新たに対物レンズ (100倍) を導入することで、血液塗抹標本の鏡検による、視認で異形リンパ球を確認できるようにし、発症牛の補助診断に役立てます。

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 4 畜産業費	
所 属	農林部畜産振興課 Tel0577-73-0152	予算書	P.97

## 新規 牛伝染性リンパ腫淘汰更新への支援

1 事業費 (単位: 千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
1,600	一般財源	1,600	交付金	1,600

(前年度予算 0 )

### 2 事業背景・目的

牛伝染性リンパ腫の感染拡大に関しては、国・県ともにその重要性を認識し、農水省は届出伝染病に指定、「衛生対策ガイドライン」を策定するなど感染拡大防止に取り組んでいます。

令和2年度、飛騨市繁殖農家において繁殖雌牛の当該疾病抗体検査を実施し、その陽性率が25%と判明しました。各々の農家は当該疾病清浄化に向け取り組む努力をしていますが、農家により経営状況は様々であり、陽性という結果だけからすぐに淘汰することは難しく、導入後すぐに陽性と判明し、繁殖雌牛として供用できなくなった場合には特に経営的なダメージが大きくなります。また、現在2～3産程の若い雌牛でも、淘汰となると経済的損失は大変大きなものとなることから、令和3年度から令和5年度の3ヵ年で段階的に陽性牛を淘汰更新し、清浄化対策をされた農家の繁殖素牛更新に係る費用を支援します。

### 3 事業概要

牛伝染性リンパ腫陽性牛を淘汰更新した場合、1頭あたりに非感染牛の付加価値分として80,000円を支援する。

- ・対象牛要件 5産以下  
他の導入事業との併用は不可
- ・対象頭数 約20頭 (80,000円×20頭)

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 4 畜産業費	
所 属	農林部畜産振興課 TEL0577-73-0152	予算書	P.99

## 新規 受精卵移植・採卵推進への支援

1 事業費 (単位: 千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
275	手数料	100	補助金	275
	一般財源	175		
(前年度予算 0 )				

### 2 事業背景・目的

現在牛の能力判別は遺伝子による判別が主流となっており、この判別方法により能力が高いと判別された牛から、受精卵技術を用いて受精卵を採卵し、増産を行う取り組みが全国的に行われ始めています。

遺伝子判別により能力が高いと判断された高能力牛は、美味しく高品質な牛肉となり、とても高価に取引がされています。

繁殖牛1頭あたりは1年1産であることから、優秀な遺伝子を判別し、能力の高い個体を生み出せることは、畜産農家の収入向上においてとても重要であるとともに、高能力牛が厳選されていくことで、継続的な牛肉の品質向上にも繋がります。

こうしたことから、令和3年度は民間の獣医師と連携し、積極的な遺伝子による判別、採卵を実施し、高能力牛の増産による畜産農家の収入向上、飛騨市産飛騨牛の更なる高品質化、全国和牛能力共進会候補牛の造成を図ります。

### 3 事業概要

採卵技術を持つ民間の獣医師と連携し、積極的な高能力牛の遺伝子判別、採卵を実施するため、採卵にかかる採卵技術料分を畜産農家へ支援していきます。

採卵料 (1/2補助) ※1頭あたりの費用55,000円

(内訳) 往診料、過排卵ホルモン料、受精卵処理料

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 4 畜産業費	
所 属	農林部畜産振興課 TEL0577-73-0152	予算書	P.98

## **拡充** ひだキャトルステーション運営への支援

1 事業費 (単位: 千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
3,110	一般財源	3,110	補助金	2,813
			委託料	297

(前年度予算 297 )

### 2 事業背景・目的

肉用牛の飼育を始めるには、土地の取得、畜産施設機械の建設・導入など多額の初期投資が必要であり、資金の確保が新規就農への高いハードルとなっていることから、市では平成30年度に県内初となる飛騨牛研修繁殖センターの建設を進め、運営母体である「ひだキャトルステーション」を設立し、新規就農者の獲得、担い手の育成を推進しています。

令和元年度に研修所が稼働し、2年間運営を行ってきた中、課題として研修生用の部屋が従業員と併用のため、研修生の休憩や今後の研修生の増加に支障があるとともに、令和3年度は新たに2名の研修生を迎える予定であることから、ひだキャトルステーションの行う研修生受入のための整備や研修環境の向上等の支援を行います。

### 3 事業概要

ひだキャトルステーションの行う研修環境の改善、向上のための事業に対し、費用の一部を支援します。

- ①現在従業員と併用している研修部屋を改修、移動し、従業員と分離した研修生用の部屋を確保します。
- ②地元との関係を良好に保つため、臭気測定を年3回実施します。
- ③敷地内の5ヶ所にアスファルト舗装の破損が発生し、作業に大きな支障がでていることから、従業員・研修生の安全な作業のためにアスファルト舗装を行います。

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 4 畜産業費	
所 属	農林部畜産振興課 Tel0577-73-0152	予算書	P.97

## 新規 スマート農業技術導入への支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
453	県補助金	302	補助金	453
	一般財源	151		

(前年度予算 0 )

### 2 事業背景・目的

高齢化の進行などにより、農業就業人口は減少を続けており、担い手確保や労働力不足の解消が喫緊の課題となっています。こうした中、農業分野においてはICTやロボット技術等の「スマート技術」を活用した機器・機械の開発が進歩しており、それらの機械を導入することで、担い手確保、労働力不足といった課題の解決が見込まれています。

飛騨市公営牧場の指定管理者となっている飛騨市和牛改良組合においても、従業員の確保が難しく、労働力不足が深刻なことから、令和3年度は放牧管理のためのドローンの導入を支援し、管理人の労力軽減・監視能力向上を図ります。

### 3 事業概要

組合員の高齢化、人手不足問題に対応するため、入牧期間中(約3か月間)の牧場管理におけるドローン導入費用の一部を支援します。(県補助金1/2 市補助金1/4)

- ・ 毎日の放牧牛の頭数確認
- ・ 脱柵牛、起立不能牛等の早期発見
- ・ 牧草の繁茂状況の確認 (下牧時期の判断)

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 4 畜産業費	
所 属	農林部畜産振興課 TEL0577-73-0152	予算書	P.98

## 拡充 飛騨市経産肥育牛（飛米牛）ブランド化への支援

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
1,000	一般財源 1,000	需用費 737 旅費 223 報償費 40
(前年度予算 759 )		

### 2 事業背景・目的

子牛を産む役目を終えた母牛を再肥育し、肉牛へと生まれ変わったものを経産牛と言います。飛騨牛を産む役目を終え、経産牛となった母牛に付加価値を付けようと、令和2年度にブランド名「飛米牛」として経産牛肥育事業が開始され、販促のためのブランディングや肥育方法の改良による味、肉質の向上を図り、以降、高価格で取引され、農家の収益の増大に繋がりました。

令和3年度は、より安くて美味しい経産肥育牛肉が安定して消費者に出せるよう、飼養管理に更なる改良を加えるための分析を行うとともに、飛米牛を使った新商品や新規メニューの開発を支援していきます。

### 3 事業概要

#### ① 【新規】畜産物新規開発への支援（126千円）

市公邸料理人である工藤英良氏を招聘し、「飛米牛」と飛騨市の農産物等を組み合わせた料理メニューの開発を行い、その内容に応じて、料理セットの商品化やレシピによる飲食店での活用を図ります。

#### ② 【継続】肉質向上、販促への支援（874千円）

脂質控えめな赤身肉を味わえる和牛雌牛「飛米牛」の肉質向上・販促の支援を行います。

- ・市内飲食店において、肉質改良の成果を検討する場として、食味研究会を年2回開催します。
- ・大学等の研究機関との連携し、食味・肉質の研究を行います。
- ・販売促進への支援を行います。（ポスター・リーフレット・木版の作成）
- ・海外輸出（ドイツ・イタリア・シンガポール等）に向け取引先やSNSを通じた売り込みを行います。

(款)	6 農林水産業費	(項)	1 農業費	(目)	4 畜産業費
所 属	農林部畜産振興課 Tel0577-73-0152			予算書	P.97

## **拡充** 飛騨地鶏ブランド力向上への支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
238	一般財源	238	需用費	103
			補助金・負担金	125
			旅費	10
(前年度予算 141 )				

### 2 事業背景・目的

「飛騨地鶏」は畜産振興と特産品のブランド化を目的に、平成16年に飛騨市が商標登録を行った飛騨市の地鶏で、現在は社会福祉法人が障害を抱える方の就労支援施設を兼ねた養鶏・食肉加工施設において生産しています。

飛騨地鶏のブランド化を推進するため、市では生産コストの削減や味を向上させるための餌の改良、市内の飛騨地鶏を取扱う店舗に宣伝用の旗を設置するなどのPRを実施してきました。

令和3年度においては、飛騨地鶏の消費拡大、生産性の向上のため、生産者への研修の実施やイベント参加等のPR支援、購入者のニーズ調査を行い、品質の向上に取り組んでいきます。

### 3 事業概要

#### ① 【新規】生産性向上に向けた優良農家視察・PRへの支援 (163千円)

知名度・地域内流通向上に向けた対策、支援を実施します。

- (1) 孵化率向上による生産性向上の取り組み
  - ・優良農家の種鶏場の管理体制の視察
- (2) 希少部位の市内流通強化による知名度、平均単価向上の取り組み
  - ・市内農家、飲食店等と連携した料理への活用検討
  - ・のぼり旗設置によるPR
- (3) 高価格販売による平均単価向上の取り組み
  - ・イベント出店費用の支援による出店機会の増加

#### ② 【継続】汚泥浄化槽処理事業 (75千円)

食肉処理過程で溜まる産業廃棄物の処理費用を支援します。

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 4 畜産業費	
所 属	農林部畜産振興課 Tel0577-73-0152	予算書	P.97

## 新規 日本みつばち保護・飼育振興への支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
141	一般財源	141	旅費	81
			報償費	60

(前年度予算 0 )

### 2 事業背景・目的

岐阜県は近代養蜂の発祥の地といわれ、近年飼育戸数、飼育群数が増加傾向にあり、生産量が年々大きく増加しています。

平成30年11月10日、会員数36名で飛騨日本みつばちの会として発足式が行われ、平成31年4月7日には、飛騨地域の日本みつばちを保護・飼育・繁殖させ、地域の自然・住民との調和を図り、地域農業への貢献・養蜂の発展を目的に第1回総会が開催されました。

当会は、一般市民を対象にした研修会を開催するなど、精力的に活動しふるさと納税返礼品にも登録していますが、会員の中にはみつばち飼育初心者の方も在籍し、飼育・管理・疾病には苦勞しています。

このため、令和3年度は日本みつばちに係る疾病・飼育管理を中心とした研修会を開催し、日本みつばちが市の特産品となるよう支援していきます。

### 3 事業概要

大学教授等の日本みつばちの専門家を招聘し飛騨日本みつばちの会の会員へ研修会を開催します。

研修内容 : 疾病対策研修 みつばちの疾病と予防や寄生虫について  
飼育管理研修会 みつばちの飼い方や生態、関連する法制度について  
基本構想

令和3年度：専門家を招き、飼育管理・疾病対策等知識・技術の向上

令和4年度：蜜源の確保（耕作放棄地利用）、蜜採取量向上対策

令和5年度：飛騨市特産品としてのPR・販売対策

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 4 畜産業費	
所 属	農林部畜産振興課 TEL0577-73-0152	予算書	P.97

## **拡充** 地元産高品質堆肥地域循環推進への支援

<b>1 事業費</b> (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
1,800	一般財源	1,800 補助金
(前年度予算 2,000 )		1,800

### 2 事業背景・目的

畜産農家にとって規模拡大の障壁の一つに糞尿処理の問題があります。この対策を図るため、共同堆肥処理施設「株吉城コンポ」では畜産農家から排出される牛糞と生薬残渣を混合した高品質な堆肥の製造に取り組んでいますが、公共事業における緑化材としての利用の減少や他社との価格競争により、同施設で製造される堆肥の販売量が低迷している状況にあります。

これらの堆肥の市内消費を増加させることは、畜産農家の糞尿処理を円滑にするとともに、耕種農家にとっては、肥沃な土壌が形成でき、土地利用型作物の生産力向上にもつながるため、耕畜が連携した資源循環型の農業が形成されます。

このため、市では地元産の良質な堆肥を利用する農家等に対し支援を行っており、令和3年度は支援対象作物を拡大することで、更なる堆肥の利用促進を図ります。

### 3 事業概要

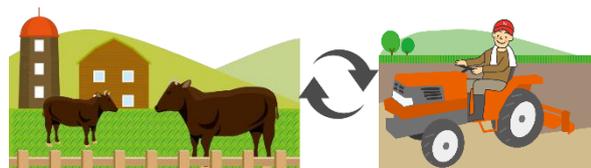
#### ①【拡充】堆肥を利用する農家に対する助成 (1,435千円)

一定量以上の高品質堆肥を利用する耕種農家や公共牧場の利用組合に対し、10aあたり5,000円の助成金を交付します。

対象作物：大豆、そば、牧草、水稻（新規）、とうがらし（新規）

#### ②【継続】堆肥散布作業に対する支援 (565千円)

農家の要請により吉城コンポ及び公共牧場利用組合が実施する堆肥散布作業に対し、作業に要した人件費や機械輸送費の一部を支援します。



(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 4 畜産業費	
所 属	農林部畜産振興課 TEL0577-73-0152	予算書	P.98

## 継続 就農研修生への支援

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
940	一般財源	940	負担金	839
			旅費	101

（前年度予算 2,663 ）

### 2 事業背景・目的

平成30年度、担い手育成のために県内初となる飛騨牛繁殖研修センター建設を進め、運営母体の「ひだキャトルステーション」を設立しました。

令和元年度には第1期生1名が入所し、令和2年度現在は2期生1名が入所しています。

令和3年度には新たに2名の研修生を予定しており、支援の継続、研修カリキュラムを見直し、各種資格取得等に向け支援していきます。

### 3 事業概要

#### ① 研修生確保対策（101千円）

研修生確保のため、地元飛騨地域に限らず県外にも積極的に出ていきます。

- ・ 東京、大阪での農業フェア参加
- ・ 短期研修生の受入（4名×2泊）

#### ② 飛騨牛繁殖研修センター負担金（839千円）

飛騨牛繁殖研修センターの各費用について負担します。

- ・ 研修生資格取得への支援  
（人工授精師・削蹄師資格・車両系建設機械運転技能講習）
- ・ 研修生消耗品（長靴、防護服等）
- ・ 人工授精器具、削蹄道具購入費

(款)	6 農林水産業費	(項)	1 農業費	(目)	4 畜産業費
所 属	農林部畜産振興課 TEL0577-73-0152			予算書	P.97

## 継続 飛騨牛雌牛増頭への支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
10,200	雑入	3,978	補助金	10,200
	一般財源	6,222		

(前年度予算 10,200 )

### 2 事業背景・目的

今や全国的に名を馳せる「飛騨牛」は、飛騨市に於いて合併以降、飼養頭羽数は最多となり、担い手も確保されてきておりますが、その生産を支える繁殖基盤は質、生産量ともにまだ十分と言える状況ではなく、更なる「飛騨牛」の生産基盤充実のために、優良な遺伝子をもった繁殖雌牛を確保する必要があります。また、牛のコンテストである全国和牛能力共進会において、優秀な牛を品評会にかけ、その品質と飛騨市の名前をPRしていくことも大切です。しかしながら、優秀な牛は価格が高く、売りに出したいというのも畜産農家の思いです。

そのため、市では優良繁殖雌牛の確保と種雄牛の造成の推進を図るため、優秀な雌牛の保留又は導入に対する支援を行っており、令和3年度も継続して実施します。

### 3 事業概要

県内産の雌牛の保留又は導入を行い、優良な黒毛和種繁殖雌牛の確保を行います。

対象頭数34頭 1頭当たり 畜産協会117千円  
飛騨市 183千円 計300千円を補助

(事業対象牛)

- ①岐阜県畜産協会が認定した牛
- ②4ヶ月齢から18か月齢未満
- ③母牛の産歴が概ね10産未満
- ④検査員による子牛総合判定が基準以上 等

(款) 6 農林水産業費	(項) 1 農業費	(目) 4 畜産業費	
所 属	農林部畜産振興課 TEL0577-73-0152	予算書	P.98

## 継続 民有林の整備促進

<b>1 事業費</b> (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
30,000	ふるさと創生基金 30,000	補助金 30,000
(前年度予算 30,000 )		

### 2 事業背景・目的

市内で戦後造林された16,255haに及ぶ民有人工林の3分の2が本格的な木材利用が可能となっている一方で、全国における木材価格の低迷や林業従事者数は減少などの課題は飛騨市においても例外ではなく、林業経営を取り巻く状況は年々厳しさを増しています。このため、市内における効率的な森林施業を支援し、林業生産活動が継続的に実施される仕組みを整えることで、森林資源の活用推進と、山林の荒廃防止を目指します。

また、豊かで価値の高い森づくりと市内森林の約7割を占める天然林の多様な資源を安定的に供給し、広葉樹のまちづくりをさらに推進するため、広葉樹の搬出に対しても支援を行います。

### 3 事業概要

#### ① 森林整備への支援 (26,000千円)

- ・間伐等森林整備に対する補助金交付 (国県補助への上乗せ) A=100ha
- ・作業路開設に対する補助金交付 (国県補助への上乗せ) L=2,500m
- ・作業路補修に対する補助金交付 (市単独事業)

対象事業：人工造林、下刈り、雪起こし・枝打ち／更新作業、樹下植栽、除伐、間伐、機能増進保育、更新伐及び作業路開設／間伐材搬出 等

#### ② 広葉樹生産への支援 (4,000千円)

上記の隣接林分と一体的に整備する広葉樹林における育成木施業 (対象行為：搬出を伴う間伐及び主伐 (原則択伐に限る)) と伐採木の搬出、運搬に対する補助金を交付します。(市単独事業) 7,000円/t

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費	
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書	P.103

## **新規** 森林集約化及び境界明確化の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
4,465	一般財源 4,465 (うち森林環境譲与税 (4,465))	委託料 4,465
(前年度予算 0 )		

### 2 事業背景・目的

これまで森林整備の促進に必要な取り組みとして、関係事業者等と行政により組織する飛騨市森林集約化推進協議会が主体となり、森林の集約化（森林所有者の特定と施業同意）作業を推進してきました。しかしながら、地籍調査が未実施など、境界が不明確な森林においては、その画定・明確化に多くの時間と労力を要し、効率的な森林整備を妨げる大きな要因の一つとなっています。

そのため、令和3年度からは森林整備を進めるにあたって解決すべき課題に「森林境界明確化」を新たに定め、集約化と境界明確化の2つを大きな課題として、優先的に解消に努めます。

### 3 事業概要

#### ① 飛騨市森林集約化推進協議会の機能拡充 (4,465 千円)

これまで森林集約化業務（所有者特定・施業同意）のみを実施していた飛騨市森林集約化推進協議会の所掌業務に、新たに森林境界明確化業務（境界画定と杭打ち）と森林経営管理法に基づく森林経営意向調査の実施業務を加え、円滑かつ効率的な森林整備の促進に必要な条件整備を行います。

(協議会の所掌業務)

- ・ 森林集約化業務（所有者特定・施業同意）
- ・ 森林境界明確化（境界画定・杭打ち）
- ・ 森林経営管理法に基づく森林経営意向調査

#### ② 飛騨市森林集約化推進協議会の体制強化 (上記の内数)

協議会の機能拡充に合わせ、これまで6月から12月までであった職員の雇用期間を通年雇用に変更、賃金も増額するなどの待遇改善を行うことで、協議会の体制強化を図ります。

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費	
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書	P.102

## 新規 未整備森林の整備推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
5,000	一般財源 5,000 （うち森林環境譲与税）（5,000）	委託料 5,000

（前年度予算 0 ）

### 2 事業背景・目的

令和元年度より森林の公益的機能の維持増進の重要性から、森林整備及びその促進を目的とした森林環境譲与税が創設され、全国的に譲与税を活用した取組が進められています。また、合わせて森林経営管理法が施行され、手入れが行き届いていない森林については所有者の意向を踏まえた上で、市が主体となって整備を行う体制が整いました。森林簿によれば、市内には15年以上間伐等の整備がされておらず、森林配置計画により森林経営（木材生産）に適さないと区分された人工林が多く存在します。

令和3年度は、森林環境譲与税を活用し、森林整備において最も重要であるこれらの未整備森林の整備を強力に推進し、経営に適した森林は集約化及び境界明確化を経て林業事業体が森林整備を実施するよう調整するとともに、経営に適さない条件不利地域における森林については、所有者への意向調査を実施した上で、森林経営管理法に基づく森林経営管理権を設定し、市が主体となった森林整備を実施します。

### 3 事業概要

#### ① 未整備森林の状況把握と整備方針の決定（ゼロ予算）

地域林政アドバイザーを中心に森林簿等を元にして市内の未整備森林の実態を把握し、関係者の意見等を伺いながら今後の整備に関する基本的な方向性を定めるとともに、緊急性などの観点から、整備実施の優先順位を決定します。

#### ② 森林経営意向調査の実施（「森林集約化及び境界明確化の推進」に一括計上）

#### ③ 未整備森林における間伐等の整備促進（5,000千円）

森林経営意向調査により把握した所有者の意向や、森林の現地調査等により当該森林が森林経営に適しているか否かを判断し、適していないと判断された森林については、市に森林経営管理実施権を設定し、所有者の合意の下で市が主体となった森林整備を実施します。

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費	
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書	P.102

## 新規 高度林業技術の確立支援

1 事業費 (単位: 千円)	【財源内訳】	【主な使途】
10,717	一般財源 10,717 (うち森林環境譲与税) (10,717)	補助金 8,599 委託料 2,118

(前年度予算 0 )

### 2 事業背景・目的

飛騨市が進める広葉樹のまちづくりの推進に合わせて求められる、より高度な林業技術の確立に必要な機械整備及び森林作業員の技術力向上を図り、引き続き高い生産性の維持による経営の安定と地域経済への貢献、そして安全で事故のない森林整備作業を実施するため、高性能林業機械導入に対し必要な支援を行うとともに、針葉樹に比べ高い技術が必要とされる広葉樹の伐倒技術研修会を開催します。

### 3 事業概要

#### ① 高性能林業機械（タワーヤーダ等）の導入支援（8,599千円）

高性能林業機械導入に要する経費の一部を支援する国・県補助に加え、飛騨市林業振興事業補助金交付要綱に基づく上乗せ助成を行います。

(補助率等) 補助対象事業費の1/10以内の額

※令和3年度は県内トップの生産性を誇る市内最大の林業事業者であり、タワーヤーダ（架線集材機械）等の高性能林業機械を駆使した効率的林業の実践により飛騨市の林業を支え、また、全国でも例のない広葉樹天然林の育成木施業の実施など、先進的かつ高度な林業への積極展開を図っている飛騨市森林組合へ助成する予定。

#### ② 広葉樹伐倒技術研修会の企画・開催（2,118千円）

針葉樹に比べ、重心の見極めが難しく、伐倒に危険が伴う広葉樹について、スイスより国家資格を有した伐倒手を招聘した技術研修会を開催します。(広葉樹の育成木施業（間伐）を基本とするため、それが可能な事業者が対象)

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費	
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書	P.102

## **拡充** 林業専門人材の活用及び育成の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
4,500	県補助金	483	委託料	4,200
	一般財源	4,017	旅費	300
	(うち森林環境譲与税)	(2,400)		
(前年度予算	2,406	)		

### 2 事業背景・目的

令和元年度から森林環境譲与税の譲与と並行し、新たな森林管理システムである森林経営管理法がスタートするなど、自治体が主体的に森林の管理、活用を考えていかなければならない時代が到来していますが、全国の市町村には林業に関する専門的な知識を持った職員が不足しているという大きな課題があります。

このため、今後新たな森林管理システムの下で森林の集約化と整備を促進するとともに、全国でも例のない取り組みとして注目を集める「広葉樹のまちづくり」をさらに推進するため、これら業務に必要な専門知識を有した人材の登用、育成を行います。

### 3 事業概要

#### ①【新規】広葉樹林業推進アドバイザーの登用 (2,100千円)

岐阜県内における広葉樹の森づくり分野の第一人者と言われ、全国的に活躍される岐阜県立森林文化アカデミーの教員（令和2年度をもって退官予定）とアドバイザー契約を締結し、「広葉樹のまちづくり」に必要な指導・助言（育成木施業等の造林技術、価値の高い森づくりに必要な施業、広葉樹の価値の普及等）を通年にわたり受けることで、広葉樹のまちづくりにおける川上分野（造林・施業）の強化を図ります。

#### ②【継続】地域林政アドバイザーの活用 (2,100千円)

林業に関する専門的かつ技術的ノウハウを有する人材を登用し、その専門的見地から実務の中でOJTにより様々なアドバイスを受けることで、林務行政の円滑な推進と職員の育成を図ります。

#### ③【継続】研修等への積極参加による職員の専門知識習得 (306千円)

森林・林業に関する様々な専門知識を学ぶため、林野庁主催の研修等へ積極的に参加します。

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 1 林業総務費	
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書	P.101

## **拡充** 市有林の整備促進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
13,000	県補助金 4,000 財産売払収入 2,100 一般財源 6,900 （前年度予算 5,477 ）（うち森林環境譲与税）（6,900 ）	委託料 13,000

### 2 事業背景・目的

市が保有する森林の整備は、これまで主に森林環境の保全と災害に強い森づくり、市内建設事業者の参画による地域振興を目的として実施されてきました。しかしながら、市内ではその多くが50年生を超えているスギ、ヒノキを中心とする人工林の持続可能な資源としての利用と、これまで積極的に活用してこなかった広葉樹資源に着目した取り組みの推進が課題となっています。

このため、市有林の管理においても新たに森林経営の視点を加え、針葉樹人工林にあっては森林の調査とその結果に基づく森林経営計画を策定・実施することで市の財産である市有林の経済的価値の向上と健全な森林経営を目指し、広葉樹天然林にあっては、中長期視点で持続可能な広葉樹林業に必要な研究・実証の場として積極的な活用を図ります。

### 3 事業概要

#### ①【拡充】森林経営の視点に基づく健全な市有林整備（8,000千円）

森林経営計画の策定（令和3年度新規・5ヵ年計画）により国県補助金を活用するとともに、整備の過程で搬出された木材は可能な限り売却し、補助金と合わせることで整備費用との収支均衡を目指します。

- ・ 施業箇所：古川町畦畑地内（長峽・下薙団地：5ヵ年計画のうち1年目）
- ・ 施業種別：搬出間伐 A=8.85ha 作業道開設 L=400m ・ 樹種：スギ

#### ②【継続】広葉樹天然林の試験施業（5,000千円）

持続可能な広葉樹林業確立に向けた研究の中で実施する資源量調査や林分資産価値の算出を踏まえた専門家の指導の下、当該林分の価値を最大化させるための施業方法を選択し、試験的な森林整備（伐採）を行います。

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 3 市有林管理費	
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書	P. 103

## 継続 里山林の整備促進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
10,000	県補助金	6,000	委託料	10,000
	一般財源	4,000		

(前年度予算 10,000 )

### 2 事業背景・目的

人里に近く市民の暮らしに密接に結びついている里山は、近年、人との関わりが希薄化するにつれ、森林の荒廃やそれに伴う野生鳥獣の里山への侵入、景観の悪化など、森林が有する本来の多面的機能が十分発揮されない状態となっています。

そのため、清流の国ぎふ森林・環境基金事業補助金を活用し、緩衝帯（バッファゾーン）整備や不用木除去等の里山林整備を行うことで、森林が有する公益的機能の維持・向上・回復を図ります。

### 3 事業概要

昨今増加する野生獣の里山への侵入及び農業被害の増加等の観点から、獣害柵設置事業（農業振興課所管）などと同時に実施することで、より高い投資効果が得られる緩衝帯（バッファゾーン）整備事業を優先して実施します。

緩衝帯（バッファゾーン）整備（4箇所 A=13.5ha）

林縁部における立木の伐採、下刈り、つる切り等による緩衝帯設置



(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費	
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書	P.102

## 拡充 広葉樹のまちづくりの普及・推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
980	一般財源 (うち森林環境譲与税)	980 (963)	旅費	513
			報償費	250
			その他	217
(前年度予算 2,855 )				

### 2 事業背景・目的

飛騨市は市内の豊富な広葉樹資源の活用を進めるため、広葉樹の資源量調査、広葉樹活用モデル林の設置、小径広葉樹材を使った商品開発などを行うとともに、セミナーの開催や先進地訪問により全国の取り組み実践者と交流するなど、広葉樹活用に関する情報収集並びに人や企業、地域との関係構築に取り組んできました。今後は引き続き広葉樹のまちづくり円卓会議や飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムにより、広葉樹を持続可能な資源として利用する仕組みづくりに取り組むことに加え、森林・林業以外の分野にまで裾野を広げ、「まちづくり」としてより多様な分野での広葉樹活用を目指します。

### 3 事業概要

#### ①【新規】広葉樹のまちづくり対話会及び市民向けツアーの開催（ゼロ予算）

森林・林業とは異なる分野の関係者を含めた「まちづくり」として広葉樹活用の裾野を広げるため、分野等に関係なく関心のある方全てを対象とした対話会の開催や実際に現地で実践者から取り組みの詳細を伝える市民向けツアーを開催します。

#### ②【継続】市民が主体となったアクションプランのブラッシュアップ（ゼロ予算）

市内の素材生産者、製材事業者、木工関連事業者等で構成される「広葉樹のまちづくり円卓会議」を定期開催し、過去に同会議での協議・検討により生まれた様々なアクションプランのさらなるブラッシュアップを行います。

#### ③【継続】広葉樹のまちづくりセミナーの開催（509千円）

森林資源活用に関するノウハウと知見を有した有識者を招聘し、市内森林関係者のみならず一般市民も対象に「広葉樹のまちづくりセミナー」を開催します。

#### ④【継続】国内先進地域の事例研究（471千円）

広葉樹活用に係る先進事例の情報収集や実践者との新たな関係構築を図ります。

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費	
所 属	農林部林業振興課 Tel.0577-62-8905	予算書	P.101

## 【拡充】 飛騨市産広葉樹の活用によるイメージアップ

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
1,900	一般財源	1,900	委託料	1,500
	(うち森林環境譲与税)	(1,900)	補助金	400
(前年度予算 1,300 )				

### 2 事業背景・目的

市はこれまで積極的に活用されてこなかった広葉樹を地域の重要な資源と位置付け、適切な森林整備により価値の高い森をつくとともに、小径広葉樹の活用を通じて地域に新たな経済循環の創出を目指す「広葉樹のまちづくり」を推進しています。こうした取り組みを進めるには、市民や来訪者に飛騨市の広葉樹の価値を知っていただくことが必要不可欠ですが、未だ市内の身近な場所に市内産広葉樹が使用されている例は十分とは言えない状況にあります。

このため、市内の様々な場所で市内産広葉樹の活用を進めることで、広葉樹の価値や魅力をPRし、もって飛騨市のイメージアップを図ります。

### 3 事業概要

#### ①【新規】 飛騨市産広葉樹を活用した木製品の公共施設等への導入 (1,500千円)

多くの人の目に触れる市役所ロビー等の公共スペースに市内産広葉樹で製作した家具・什器等の設置を市が率先して進め、市民及び市外からの来訪者に対して飛騨市産広葉樹の価値と活用方法を広め、「広葉樹のまちづくり」の推進と市のイメージアップを図ります。

#### ②【新規】 公共スペースをショールームに見立てた展示・商談会の開催 (ゼロ予算)

上記事業で導入した家具・什器等のほか、これまで市内産広葉樹で製作した木製品とその背景、価値を直接コンシューマーに伝え販売促進を図るため、市役所ロビー等の公共スペースをショールームに見立てた展示・商談会を開催します。

#### ③【継続】 飛騨市産広葉樹を活用した看板制作への支援 (400千円)

市内産広葉樹の活用、市内事業者等による製作、設置など、あらかじめ市が定めた条件に合致した看板の制作に対し支援を行います。(補助率：8/10 上限40万円)

(款)	6 農林水産業費	(項)	2 林業費	(目)	2 林業振興費
所 属	農林部林業振興課 Tel.0577-62-8905		予算書	P.102	

## **新規** 持続可能な広葉樹林業確立に向けた研究の実施

1 事業費 (単位: 千円)	【財源内訳】	【主な使途】
2,995	一般財源 (うち森林環境譲与税)	委託料 2,995 (2,995)
(前年度予算 0 )		

### 2 事業背景・目的

市はこれまで「広葉樹のまちづくり」として主に木材の川下（木材活用）分野の強化に取り組んできましたが、広葉樹天然林の整備には国、県からの支援が無く、川上（林業経営）分野では未だ持続可能な仕組みが構築できていません。また、近年広葉樹は、外国産材・国産材ともに価格が高騰していることから、中長期的な視点でこうした状況を捉え、全国に先駆けて持続可能な広葉樹林業の仕組みづくりを進める必要があります。そのため、飛騨市における広葉樹林業の課題に照らし、専門家や試験研究機関からの支援を受けながら、その解消に向けた研究を行うことで、針葉樹と同様に経済活動として持続可能な広葉樹林業の確立を目指します。

### 3 事業概要

#### ① 天然林における詳細資源量把握の研究 (2,995 千円)

これまで人力以外の資源量把握が困難とされてきた天然林について、UAV (※) やモバイル3Dスキャナなど、最新技術の活用と大学・企業が有する専門的な知見・ノウハウに基づく支援を受け、その実現を目指します。 ※無人航空機、ドローン等を指す。

#### ② 林分資産価値の評価手法の確立 (ゼロ予算)

森林・林業に関する試験研究機関が飛騨市をフィールドに研究事業を行うことを受け、立木の資産価値を伐採前に算出・評価する手法の確立を目指します。

#### ③ 資源量調査結果に基づく適切な施業方法の研究・選択 (ゼロ予算)

調査林分の資源分布等を踏まえ、当該森林に相応しい施業方法を研究します。

#### ④ 研究事業の振り返りと評価 (ゼロ予算)

①～③の結果を踏まえ、持続可能な広葉樹施業に関する評価・検証を行います。

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費	
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書	P.102

## 新規 広葉樹のまちづくり賃貸住宅の整備

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
14,000	一般財源 14,000 (うち森林環境譲与税) (14,000)	補助金 10,000 原材料費 4,000
(前年度予算 0 )		

### 2 事業背景・目的

飛騨市における森林、中でも広葉樹天然林は、マテリアルとしての利用だけでなく、豊かな暮らしを支える水や、水が育む様々な農畜産物の源となっているなど、林業に留まらず街そのものの価値・魅力の向上に寄与しています。とりわけ、建築物や街並みはその街の顔でもあるため、今後は多様な広葉樹を市内の建築に積極的に取り入れ、市の魅力向上を図ると同時に、小径材活用の出口として広葉樹のまちづくりの一翼を担えるよう、これまでにない活用方法を市内外に発信することが必要です。

そのため、小径または曲がり等によりこれまでチップにしかならなかった広葉樹を、新技術・工法を用いて建築分野に活用し、建築分野における広葉樹の新たな活用モデルを示すとともに、アフターコロナを見据えた人口還流の受け皿整備という二次的効果や相乗効果も企図した「広葉樹のまちづくり賃貸住宅」を整備します。

### 3 事業概要

#### ① 飛騨市産広葉樹を活用した賃貸住宅整備に対する支援 (10,000千円)

市内に飛騨市産の広葉樹材を新たな技術等を用いて活かすモデル性の高い賃貸住宅(集合住宅)を整備するため、事業者をプロポーザル方式で募集し、選定事業者が行う施設整備のうち、木工事に要する経費の一部を支援します。

(本体工事費のうち、木工事に要する経費の1/2以内、10,000千円を上限とする)

#### ② 賃貸受託整備に必要な飛騨市産広葉樹の現物支給 (4,000千円)

プロポーザル選定事業者が実施する賃貸住宅整備に必要な飛騨市産広葉樹材を現物により支給します。

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費	
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書	P.102

## 新規 地域再生（全国広葉樹活用）シンポジウムの開催

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】
649	一般財源 (うち森林環境譲与税)	旅費 報償費 その他
(前年度予算 0 )	649 (649)	239 210 200

### 2 事業背景・目的

国産広葉樹活用の可能性やその必要性及び地域資源としての広葉樹に光を当て、地方創生に活かしていくための様々な情報交換や、全国で広葉樹活用の研究等を行う研究者や有識者等との新たな関係の構築、飛騨市・広葉樹のまちづくりの全国発信による関係人口（連携、協力、応援者）の増、コンベンション誘致による宿泊滞在者の増による地域経済の活性化等を目的として、平成27年度より広葉樹の産地である東北を中心に国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所の主催により開催されている「地域再生シンポジウム（全国広葉樹活用シンポジウム 集客規模300～400人）」を森林総合研究所関西支所との共催により飛騨市で開催します。

### 3 事業概要

#### ① 地域再生シンポジウムの開催（200千円）

全国7か所目の開催地として、森林総研関西支所との共催による地域再生シンポジウムを令和3年秋頃を目途に飛騨市で開催します。シンポジウムは、広葉樹活用に関する研究者や実践者からの発表とパネルディスカッションを主としながらも、翌日のエクスカージョンでは飛騨市の取り組みを詳しく紹介する内容とすることで、全国に「飛騨市広葉樹のまちづくり」を発信します。

※これまでの開催地：H27青森 H28新潟 H29山形 H30山形 R1岩手 R2北海道

#### ② 研究者・有識者との新たな関係の構築（449千円）

シンポジウムに登壇・参加するために来訪される研究者・有識者を対象として、シンポジウム前後に飛騨市の取り組みの詳細説明を現地で行うとともに、意見交換を行うことで新たな関係を構築し、飛騨市の取り組みの支援者を増やします。

(款)	6 農林水産業費	(項)	2 林業費	(目)	2 林業振興費
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905			予算書	P.101

## 新規 広葉樹のまちづくり関係人口のネットワーク化の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
500	一般財源	500	委託料	500
	(うち森林環境譲与税)	(500)		
(前年度予算 0 )				

### 2 事業背景・目的

飛騨市が広葉樹のまちづくりの取り組みを本格化させて6年が経緯しましたが、近年、全国からの視察申込みや、市主催による広葉樹のまちづくりツアーに定員を超える申し込みがあるなど、徐々にその取り組みが全国的に認知・評価されつつあります。とりわけ、令和2年度に開校した「広葉樹のまちづくり学校」の受講者のうち、特に木材流通の川下分野である木製品加工・製造・販売を行う個人または事業者の中には、引き続き飛騨市との関係の継続を希望される方もあります。

そのため、広葉樹のまちづくりにおける関係人口と言えるこれらの方々を「広葉樹のまちづくり共創パートナー」として位置づけ、ネットワーク化することで繋がりを維持し、広葉樹のまちづくりに参画する事業者との更なる関係構築を進め、連携・協働による新たなビジネス創出を推進します。

### 3 事業概要

これまでの広葉樹のまちづくりに関する取組で繋がりの生まれた事業者等のうち、より深い関係を望む事業者を「広葉樹のまちづくり共創パートナー」として位置付け、飛騨地域産広葉樹の購入や活用をはじめ、飛騨市内事業者と連携した商品開発などの新たな意向や計画提案に対し、市が地域おこし協力隊等へ委託し、中間支援組織として飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムとのマッチングを図るなど、きめ細やかな支援を行うことで、広葉樹の活用に関する新たな事業の創出を推進します。

(款)	6 農林水産業費	(項)	2 林業費	(目)	2 林業振興費
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905			予算書	P.102

## 新規 広葉樹の森と地場産品の関係見える化プロジェクト

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
10,300	国庫補助金 10,000	委託料 6,930
	一般財源 300	需用費 1,650
		その他 1,720
(前年度予算 0 )		

### 2 事業背景・目的

飛騨市のシンボルマークである市章は、4町をつなげる清らかな「水」がモチーフとなっており、その源は市面積の93%を占める森林です。豊かな森は清らかな水を育み、清らかな水は質の高い農畜産物等の様々な地場産品を生み出しています。しかしながら多くの市民や飛騨市を訪れる観光客はその密接な関係性を知ることなく、恵みのみを享受し、豊かな森とその恵みである地場産品等との関係性は意識上分断されているのが現状です。

この事業では、広葉樹の森と地場産品の関係性を紐解き、「新しい価値」として見える化することで、これまで以上の高い付加価値を創出することを目指します。

### 3 事業概要

#### ① 豊かな広葉樹の森と地場産品の関係性に関する調査研究 (3,918千円)

県内大学等の学術研究機関や地場産品の生産者などとの連携・協働によるフィールドワークを元に、飛騨市の豊かな森に育まれる清らかな水や土壌（腐葉土）と地場産品（例：お米、野菜、鮎など）との関係性を紐解く調査研究を実施します。

#### ② 生産者等の合意形成と人材育成 (959千円)

調査研究の結果は生産者等の関係者をはじめ、市民や飛騨市ファンクラブなどの関係人口に広く共有し合意形成を図るとともに、セミナーや勉強会などの開催により、それらの知識を自らの言葉で説明・PRできる人材を育成します。

#### ③ 新たな付加価値創出による地場産品の販売促進 (5,423千円)

調査研究により明らかになった関係性を新たな価値として消費者等に伝えるため、必要なツール（PR冊子、イメージ動画等）を制作するとともに、ガバメント・クラウドファンディング等により、市外在住者が地場産品の購入を通じて飛騨市の豊かな広葉樹の森づくりに貢献する新たな仕組みづくりを進めます。

(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費
所 属	農林部林業振興課 TEL0577-62-8905	予算書 P.101

## 継続 有害鳥獣の捕獲推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】								
10,950	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">県補助金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,230</td> </tr> <tr> <td>ふるさと創生基金</td> <td style="text-align: right;">3,500</td> </tr> </table>	県補助金	1,230	ふるさと創生基金	3,500	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">報償費</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">7,450</td> </tr> <tr> <td>補助金</td> <td style="text-align: right;">3,500</td> </tr> </table>	報償費	7,450	補助金	3,500
県補助金	1,230									
ふるさと創生基金	3,500									
報償費	7,450									
補助金	3,500									

（前年度予算 10,950 ）

### 2 事業背景・目的

市内における野生鳥獣による農業被害額は、令和元年には14,766千円\*に上り、有害鳥獣捕獲の重要度は益々高まっていますが、高齢化等により捕獲活動の担い手である狩猟者が減少傾向にあるため、これまでのような活動が困難になることが懸念されます。

このため、引き続き有害鳥獣の捕獲に対し助成金（買上金）を交付するとともに、意欲ある狩猟者の育成支援に努めることで、有害野生鳥獣の捕獲体制強化と農業被害の抑制に努めます。

\*飛騨市農林部調べ（R元年1～

12月）

### 3 事業概要

#### ① 有害鳥獣捕獲事業（7,450千円）

野生鳥獣による農作物等への被害抑制のため、飛騨市鳥獣被害対策実施隊が行うツキノワグマ、イノシシ（成獣・幼獣）、ニホンジカ、ニホンザル、ハクビシン、カラス等の捕獲に対し、助成金（買上金）を交付します。

#### ② 飛騨市狩猟者育成事業補助金（3,500千円）

新たに有害鳥獣捕獲業務に従事する意欲のある市民に対し、免許費用、猟銃取得等に要する経費を補助し、担い手の確保・育成を図るとともに、飛騨市鳥獣被害対策実施隊員の年齢構成の平準化を図ります。

・補助率10/10（上限500千円）×7名分



(款) 6 農林水産業費	(項) 2 林業費	(目) 2 林業振興費	
所 属	農林部林業振興課 Tel.0577-62-8905	予算書	P.101

## 継続 地籍調査の推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
53,108	県補助金	38,772	委託料	49,450
	手数料	29	会計職人件費	2,102
	一般財源	14,307	その他	1,556
（前年度予算 55,909 ）				

### 2 事業背景・目的

地籍調査は、国土調査法に基づき規定された調査（①基本調査、②土地分類調査、③水調査、④地籍調査）のうちの一つで、土地に関する権利、税、利用面の要求に対応する基本的調査として、事業費については国が50%、県・市が各25%を負担します。

山林所有者の高齢化や世代交代、不在村化により境界に関する記憶が失われつつある中、本事業を計画的に推進することにより、土地所有者による境界確定を推進し、森林整備事業等に役立てることを目的としています。

### 3 事業概要

#### ① 調査測量委託（49,450千円）

令和3年度予定箇所：6地区（すべて継続地区）

- 古川町：信包地区
- 河合町：角川、新名地区
- 宮川町：大無雁・落合地区
- 神岡町：西、数河・石神地区

#### ② 筆界杭、目印テープの支給（500千円）

地権者に境界杭を設置してもらうことが現地調査のはじまりです。市では、筆界杭や目印テープの無料配付を行います。

##### ●調査済み換算面積（令和2年度末見込み）

- 178.16km<sup>2</sup>（調査計画面積 604.91km<sup>2</sup>）
- 29.45%の進捗率（岐阜県 17.5%）
- 県内では8番目の進捗率



(款)	2 総務費	(項)	5 統計調査費	(目)	2 地籍調査事業費
所 属	農林部林業振興課	TEL	0577-62-8905	予算書	P.64